

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

城原遺跡は、久留麻市街地に広がる周知の埋蔵文化財包蔵地である。平成7年に起きた兵庫県南部地震以後、淡路島内では、この地震に伴う復旧・復興事業のひとつとして、復興住宅をはじめとした被災者向けの供給住宅を目的とした宅地造成事業が計画された。城原遺跡が位置する久留麻地区においても、復興住宅の建設をはじめ、数多くの住宅建設事業が計画され、実施された。城原遺跡においても被災者向けの宅地供給を目的とした宅地造成事業が計画されたため、平成10年10月に遺跡の広がりや深度、性格などを確認するための確認調査を実施することとなった。

また、令和3年には、遺跡内において、個人住宅建築が計画されたことに伴い、埋蔵文化財保護と開発事業との調整資料を得ることを目的として、確認調査を実施した。

第2節 第1次調査（確認調査）の経過

1 調査経過

調査は、当初、造成工事予定地内に幅2mのトレンチ7本を設定して実施する予定であったが、調査の途上、遺構が検出されたトレンチについてはその性格を把握する目的から一部でトレンチの追加・拡張を行った。さらに周辺部への遺跡の広がりを確認する目的で、3ヶ所の試掘坑を設定し調査を実施した。その結果、調査区は9ヶ所となり、総面積は350㎡となった。（第1図）

調査の結果、弥生時代、平安時代、中世の3時期の遺物と弥生時代と平安時代の遺構面を確認した。平安時代の遺構面では、3棟の掘立柱建物跡と櫓が確認され、それらの柱穴等から島内でも出土事例の少ない緑釉陶器が出土したほか、イダコ壺や土鍾、製塩土器なども出土した。その下層の弥生時代の遺構面では、方形の竪穴建物跡の一部と考えられる遺構を確認した。出土した土器から、弥生時代終末期前半の遺構と判断できた。

これら発掘調査の整理作業は平成10～11年に、出土遺物に対する洗浄や注記などの基礎的な作業及び一部の遺物について復元や実測図作成を実施した。その後、出土遺物全体の整理や出土遺物及び遺構、調査成果の分析などを行い、報告書刊行に向けた整理作業については令和2～3年度に実施したものである。

2 調査体制と期間

調査主体 旧東浦町教育委員会

担当者 伊藤宏幸（津名郡町村会）

調査期間 平成10年10月19日～平成10年11月26日

調査面積 350㎡

第3節 第2次調査（確認調査）の経過

1 調査経過

調査は、事業予定地内に、2m×2mの調査区を3ヶ所設定し、発掘した。（第1図）なお、調査終了後の調査区は、十分な填圧を行った後に全て埋め戻しを行った。

調査の結果、縄文時代、弥生時代、平安時代の3時代の遺物が出土した。縄文時代の遺物は、城原遺跡の周辺部では初めての資料であり、本遺跡が縄文時代まで遡ることを裏付ける重要な資料となる。

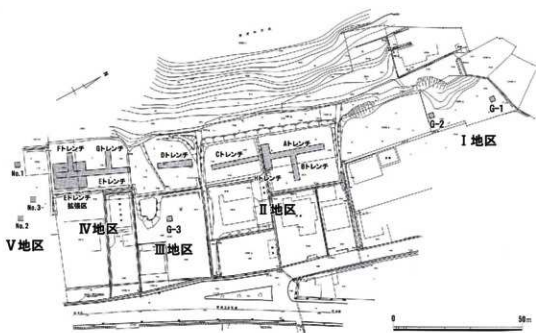
2 調査体制と期間

調査主体 淡路市教育委員会

担 当 者 高田大地、工藤祥子

調査期間 令和3年3月16日～令和3年3月17日

調査面積 12m²



第1図 城原遺跡調査区配置図

第4節 整理作業の経過

整理作業は、出土遺物の水洗い、注記、接合・補強、復元、実測図の作成と製図、報告書図版の作成などの整理作業、遺構実測図や写真などの発掘調査資料の整理作業等を行った。なお、出土した鉄器は、令和2年度に愛媛大学アジア古代産業考古学研究センターとの共同研究として、分析等の作業を行った。整理作業体制等は、下記のとおりである。

平成10・11年度

調査主体 東浦町教育委員会

担当者 伊藤宏幸

整理員 柿原恵子、山下絵里

令和2・3年度

調査主体 淡路市教育委員会

担当者 伊藤宏幸、工藤祥子

補助員 湯谷恭幸

整理員 田浦あい子、青木一男、松村佳世子、関根育代

共同研究 愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター



第2図 作業風景